人権教育に関する特色ある実践事例

基準の観点	協力的・参加的・体験的な学習を効果的に進めている実践事例

１．基本情報

○都道府県名及び市町村名

宮城県登米市

○学校名

宮城県登米市立新田中学校

○学校のＵＲＬ

http://www.tome-svr.jp/~nitta-chu/html/

２．学校紹介

○学級数

【通常の学級】全学年各１学級,【特別支援学級】１学級,【合計】４学級

○児童生徒数

【全生徒数】　９０人（平成２３年１２月１日現在）
　内訳：１年生２１人，２年生２９人，３年生４０人）

○学校の教育目標、人権教育に関する目標など

【学校の教育目標】
　小・中学校のよさを生かし，９年間を見通した教育実践をとおして，主体的な学びを実践する心身共に健康な児童・生徒を育成する。
【人権教育に関する目標】
　相手の気持ちや立場を理解し，人に対する思いやりの心を育み，協力しながらよりよい集団生活を築いていこうとする態度を育成する。

○人権教育にかかる取組の全体概要

(1) 教科における指導
　①各教科の学習を通して身に付ける知識や心情，態度が，偏見や差別をなくそうとする認識と実践の基盤づくりとなるように努める。
　②個を大切にした授業，楽しくわかりやすい授業を工夫する。
　③支え合い，共に認め合う学習態度を育てる。
　④社会科を中心として，人権に関する正しい理解を深めるとともに，異文化や多様性を理解し，互いによりよく生きようとする「共生の心」を培う指導に努める。
(2) 道徳における指導
　①偏見・差別を許さないという認識を育て，実践力を高める。
　②生命の尊さを理解し，人権を尊重する心を育てる。
(3) 特別活動における指導
　①仲間を大切にし，支え合う集団づくりに努める。
　②集団や社会の一員として，よりよい生活を築こうとする自主的，実践的な態度

を育てる。
(4) 総合的な学習の時間における指導（「福祉」を通して）
①互いに認め合い，豊かな人間関係をつくろうとする心を育てる。
②地域の人と交流しながら，社会の一員としての自覚を深め，社会性を育てる。
③福祉やボランティア活動に対して目を向けさせ，自分の生き方を考えるよう指導する。

３．特色ある実践事例の内容

◆　学区内にあるハンセン病療養施設との交流会〈東北新生園ミニコンサート〉

（取組のねらい，目的）

地域との交流の一環として東北新生園を訪問し，合唱を披露することで園の方々との交流を図るとともにハンセン病についての理解を深める。

（取組を始めたきっかけ）

国立療養所東北新生園は，全国に１３か所ある国立ハンセン病療養所の一つであり，本校の学区内（登米市迫町新田字葉ノ木沢）に設置されている。１９５１年から１９６５年までは，新生園内に新田小学校と新田中学校を本校とする葉ノ木沢分校が設置されていたこともあり，１９６０年に開校した新田第二小学校（現在は閉校）では，葉ノ木沢分校及び東北新生園との交流が当時より行われていた。

本校は，毎年１２月にベートーヴェンの「歓喜の歌」を全校で歌う「歓喜に寄すを歌う会」を２０年以上継続して開催している他，小規模校ではあるがＮＨＫ学校音楽コンクールにも特設合唱部が出場するなど合唱活動に力を入れている。こうした活動を地域の方々にもご覧いただく機会として平成２２年１１月２４日に東北新生園へ合唱訪問することを計画した。

これとは別に，平成２２年８月２１日に法務省，厚生労働省，全国人権擁護委員連合会等の主催による「ハンセン病に関する親と子のシンポジウム」が仙台で開催されこのシンポジウムにパネリストとして本校生徒１名が招待された。このシンポジウムについては，法務省・文部科学省編の「平成23年版人権教育・啓発白書」に掲載されている。

このシンポジウムに本校生徒が参加したことも，今回の新生園を訪問するきっかけの一つとなった。

偏見や差別のない社会めざして
患者が受けた誤解と苦しみに衝撃
「正しく理解を」中高生が呼びかけ

【朝日中学生ウイークリー平成２２年９月１２日号】

（取組の内容）

平成２２年１１月２４日に，「東北新生園ミニコンサート」と題して８月のＮＨＫ学校音楽コンクールに出場した特設合唱部員３３名が合唱訪問を行った。１３時４５分からの３０分間に，全６曲を発表した。最後は生徒がステージを降りて，

入所者の席を囲み，「ふるさと」を入所者の方々と一緒に歌い，交流を深めた。コンサートの最後に，入所者代表の方からのお礼の言葉と花束をいただいてミニコンサートを終了した。

平成２３年度も訪問を計画していたが，東日本大震災の影響で中止とした（平成２４年度は実施予定）。以下の実践例は，平成２２年度のものである。

【ミニコンサートの手作りパンフレット】

（取組の主体や実施体制）

新生園への訪問を，本校の「総合的な学習の時間」の福祉学習に位置付け，教頭及び特設合唱部顧問が新生園と連絡を取り，承諾を得て実施した。

（取組を実現するにあたって課題となったこと，及びそれに対して講じた工夫）

ミニコンサートを実施するに当たり，園の方々に喜んでいただくとともに，交流を図るためには選曲が重要な要素となる。今回は以下の三つの観点から決定した。

(1) 最も得意な曲として「*アイラブ*」「*MY　OWN　ROAD*」を選曲
　８月に開催されたＮＨＫ学校音楽コンクールの発表曲であり，多くの時間を掛けて練習してきたため。

(2) 観客(入所者)も知っている曲として「*おぼろ月夜*」「*浜辺の歌*」「*花*」を選曲
　高齢の入所者にも楽しんでもらえる曲として選曲した。

(3) 入所者の方々と一緒に歌える曲として「*ふるさと*」を選曲
　同じ新田地区に住む隣人同士である，という思いから，共に合唱することで交流を図ることをねらいとし，「ふるさと」を最後の曲として選曲した。

４．実践事例の実績、実施による効果

（取組が効果を上げた実際の事例）

【ミニコンサートの様子】

ミニコンサートの終わりのあいさつは，本校を代表して８月のシンポジウムに参加した生徒が務めた。シンポジウムの中で生徒は，「今の社会では偏見や差別のない世界を目指してみんなが努力しています。ハンセン病患者だけでなく，すべての人が安心して暮らせる世界になればいいなと思っています。」と述べた。生徒の素直な言葉を引き出させることで，園の方々に思いが伝わったと思われる。まだ初めての実施なので，今後も継続し，園が学校を含めた地域との関わりを深められればと願う。

５．実践事例についての評価

（取組についての評価，及びそう評価する理由）

事後の生徒の感想として，以下のような声が聞かれた。

「最後にふるさとを一緒に歌ったことがとても印象に残っている」（１年女子）

「輪を作って一緒に歌った時，少し恥ずかしかった」（２年男子）

「合唱だけでなく，文化祭で演じた劇を発表するとよいと思う」（３年男子）

「老人福祉施設を訪問した時と同じように交流することができた」（２年女子）

生徒の感想は，肯定的なものがほとんどであった。こうした感想から，生徒にとって有意義なコンサートであったと思われる。また，次年度以降は，生徒の意欲や願いを取り入れて取組内容を工夫したり他の福祉学習との連携を図るなど，工夫改善の余地があるのではないか，と考える。

（保護者や地域住民からの反応）

この実践に対しての地域や保護者を対象とするアンケート等は実施していない。しかし，新生園に職員として勤務している保護者からは一様に好意的な感想が聞かれた。ただし，実施時期については１１月以降は気温が下がるために，もっと温暖な時期がよいという要望が出された。

（現在，実施にあたって課題と感じていること）

(1) 合唱訪問の位置付けと時間の確保について

この実践を,「総合的な学習の時間」の福祉学習に位置付けて行ったのだが,ねらいとした「地域との交流」が十分であったか，という反省点が残った。新生園の入所者の方々との交流は達成できたものの，それが社会の一員としての自覚を深め，社会性を育てることにまではつながらなかったように感じている。初めて実施した平成２２年度は，十分に練られた計画の下に実施したとは言えず，そのために事前と事後の指導時間を確保できなかった。新生園の訪問自体を目的とするのではなく，生徒に「共生の心」を培わせる手立ての一つとして取り組ませるような実践としなくてはならない。

(2) 合唱訪問への参加生徒について

合唱訪問に参加した生徒が全校の約３分の１ほどの特設合唱部員のみで，全校生徒が参加した取組ではなかった。会場の収容人数との兼ね合いもあるが，小規模校の特質を生かした全校生徒での参加が，地域に生きる生徒の人権意識向上に資すると思われるので，今後の参加体制を検討していきたい。

平成２４年度以降も，この合唱訪問を継続的に行っていくためには，以上の２点の課題について，校内でその解決のために改善を図り，また新生園とも綿密に打合せをもち，よりよい教育活動とするために努力していきたい。

【 人権教育の指導方法等に関する調査研究会議によるコメント 】

登米市立新田中学校
学区内にある国立療養所東北新生園（ハンセン病療養施設）との交流を取組の中心に据えた個別的な視点からの独自性のある事例である。 総合的な学習の時間に位置付けて訪問による交流を行い,生徒一人一人がハンセン病患者・元患者等の人権課題を自分の問題としてとらえ,自己の生き方を深く考えることにより,地域に共に生きる者として人権意識を高揚し,自らの行動を変容させている。 交流するに当たっては,生徒の代表が「ハンセン病に関する親と子のシンポジウム」に参加したことをもとに事前指導を行い,体験的な学習に関する学習サイクルに基づいた実践を行って,その取組を系統的なものにしている。 また,新田小学校との小中一貫教育による発達の段階に即した一貫性のある系統的・継続的な人権教育の授業研究,共同研究の成果は注目される。